

平成26年度ヤクシカ捕獲状況(許可捕獲)

平成26年度	4月～5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月～1月	計
上屋久町 猟友会	538 頭 (168%)	549 頭 (105%)	418 頭 (83%)	517 頭 (103%)	821 頭 (143%)	2,843 頭 (117%)
屋久町 猟友会	235 頭 (142%)	239 頭 (128%)	230 頭 (113%)	196 頭 (81%)	260 頭 (128%)	1,160 頭 (116%)
国有林	15 頭 -	120 頭 (211%)	155 頭 (194%)	182 頭 (150%)	54 頭 (39%)	526 頭 (133%)
職員・ 調査捕獲 協定・官民 界有害捕獲	15 頭	95 頭	124 頭	96 頭	54 頭	384 頭
		25 頭	31 頭	86 頭		142 頭
合計	788 頭 (162%)	883 頭 (115%)	772 頭 (98%)	809 頭 (94%)	1,135 頭 (126%)	4,387 頭 (115%)

注:()内の割合は、前年度比

国有林欄の協定・官民界有害捕獲分は、両猟友会の実績に含まれているため、合計は上屋久町猟友会、屋久町猟友会、国有林(職員・調査捕獲)の実績を集計している。

出典:屋久島町資料、屋久島森林管理署資料

(参考)H25捕獲実績

平成25年度	4月～5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月～1月	計
上屋久町 猟友会	320 頭	524 頭	506 頭	502 頭	573 頭	2,425 頭
屋久町 猟友会	166 頭	187 頭	204 頭	241 頭	203 頭	1,001 頭
国有林		57 頭	80 頭	121 頭	138 頭	396 頭
職員・ 調査捕獲 協定・官民 界有害捕獲		57 頭	80 頭	121 頭	123 頭	381 頭
					15 頭	15 頭
合計	486 頭	768 頭	790 頭	864 頭	899 頭	3,807 頭

出典:屋久島町資料、屋久島森林管理署資料

国有林の林道別のヤクシカの捕獲数と捕獲効率（CPUE）の推移

国有林では、わな猟による捕獲を実施しているが、捕獲にあたっては延べわな数やわな掛け期間、雌雄子供別の捕獲数等の記録をしている。

平成26年度（平成26年4月から平成27年1月末まで）の国有林における河川界別、月別の捕獲数等を表1に示す。

表1 平成26年度の国有林における河川界別、月別の捕獲数等

河川界No.	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	計		
1 (楠川前岳・小瀬田第2・小瀬田・鍋山林道)	延べ罟数	0	0	0	0	40	279	381	312	165	168	1345 個		
	捕獲頭数	雄	親	0	0	0	0	1	0	1	1	0	4 頭	
			子	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3 頭
		雌	親	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4 頭
			子	0	0	0	0	1	3	0	4	2	0	10 頭
	計	0	0	0	0	2	6	2	7	2	2	2	21 頭	
捕獲効率	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0500	0.0215	0.0052	0.0224	0.0121	0.0119	0.0156	頭/個		
2 (中瀬川・安房林道63支線・62林班)	延べ罟数	0	40	150	256	205	600	12	102	204	0	1569 個		
	捕獲頭数	雄	親	0	0	1	1	0	7	0	1	0	10 頭	
			子	0	0	1	2	2	13	0	1	0	19 頭	
		雌	親	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	4 頭
			子	0	1	1	1	2	10	0	0	0	0	15 頭
	計	0	1	3	5	4	31	0	2	2	0	48 頭		
捕獲効率	0.0000	0.0250	0.0200	0.0195	0.0195	0.0517	0.0000	0.0196	0.0098	0.0000	0.0306	頭/個		
6 (小楊子林道)	延べ罟数	0	247	285	0	0	216	57	0	0	36	841 個		
	捕獲頭数	雄	親		4	2			1				7 頭	
			子		1				4	1			2	8 頭
		雌	親		4	6			3					13 頭
			子						5	1				6 頭
	計	0	9	8	0	0	12	3	0	0	2	34 頭		
捕獲効率	0.0000	0.0364	0.0281	0.0000	0.0000	0.0556	0.0526	0.0000	0.0000	0.0556	0.0404	頭/個		
9 (一湊・宮之浦林道)	延べ罟数	0	0	135	381	309	240	820	910	290	250	3335 個		
	捕獲頭数	雄	親	0	0	6	14	10	20	33	38	11	6	138 頭
			子	0	0	1	2	3	7	5	6	2	0	26 頭
		雌	親	0	0	7	7	9	2	30	24	7	1	87 頭
			子	0	0	2	9	4	9	4	7	7	1	43 頭
	計	0	0	16	32	26	38	72	75	27	8	294 頭		
捕獲効率	0.0000	0.0000	0.1185	0.0840	0.0841	0.1583	0.0878	0.0824	0.0931	0.0320	0.0882	頭/個		
10 (神之川・白谷林道・220支線)	延べ罟数	0	174	304	0	75	285	270	210	225	162	1705 個		
	捕獲頭数	雄	親	0	2	9	0	4	17	5	2	5	44 頭	
			子	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	5 頭
		雌	親	0	2	15	0	3	6	3	6	5	0	40 頭
			子	0	1	4	0	1	3	4	0	2	0	15 頭
	計	0	5	31	0	8	28	12	8	12	0	104 頭		
捕獲効率	0.0000	0.0287	0.1020	0.0000	0.1067	0.0982	0.0444	0.0381	0.0533	0.0000	0.0610	頭/個		
合計	延べ罟数	0	461	874	637	629	1620	1540	1534	884	616	8795 個		
	捕獲頭数	雄	親	0	6	18	15	15	44	40	42	16	203 頭	
			子	0	1	5	4	5	27	6	8	2	61 頭	
		雌	親	0	6	28	8	12	14	34	31	14	1	148 頭
			子	0	2	7	10	8	30	9	11	11	1	89 頭
	計	0	15	58	37	40	115	89	92	43	12	501 頭		
捕獲効率	0.0000	0.0325	0.0664	0.0581	0.0636	0.0710	0.0578	0.0600	0.0486	0.0195	0.0570	頭/個		

(注) 平成26年4月から平成27年1月末までの数値。なお、わな種は全てくくりわなによる。

表1より、国有林の林道における平成26年度（平成27年1月末まで）の河川界別捕獲数は、河川界No.9が294頭（CPUE〔捕獲効率＝捕獲数/延べわな数〕：0.0882）、河川界No.10が104頭（CPUE：0.0610）と多かった。河川界No.9には一湊林道、宮之浦林道が、河川界No.10には神之川林道、白谷林道・220支線が含まれる。また、月別捕獲数は全体的には9月から11月まで

の秋期と 6 月の梅雨期に多い傾向が見られる。

続いて、平成 22 年度から 26 年度（平成 27 年 1 月末）までの国有林における河川界別、林道別の捕獲数と延べわな数を表 2 に示す。

表 2 国有林における河川界区分、林道別平成 22 年度～26 年 9 月までの捕獲数等

河川界No.	林道名	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数
1	楠川前岳林道					15	156	9	221	3	186
	楯川林道					1	6	14	341		
	小瀬田林道第2支線					2	78	39	1,109	3	300
	小瀬田林道	8	1,170			19	565	0	33	11	526
	船行林道	6	1,812	14	612	15	340	8	446		
	鍋山林道			17	1,288			24	745	4	333
2	中瀬川林道	26	1,586	5	434	7	126	19	373	40	1,020
	安房林道63支線			1	124	3	20	4	112	6	429
	安房林道62林班									2	120
4	林道南部線					3	158	8	311		
5	湯泊林道	10	630			30	645	2	114		
	中間林道					3	50	1	113		
	栗生支線							5	254		
6	小楊枝林道	3	651			6	101	66	806	34	841
	小楊枝林道24支線					9	153				
7	大川林道	106	5,733	78	4,085	33	586				
9	一湊林道					97	514			83	1,200
	志戸子林道					3	41				
	桜並木道					3	104				
	宮之浦林道	185	4,876	144	5,104	41	849	96	1,116	211	2,135
10	自然公園湯之子線					13	67				
	神之川林道	123	2,745	43	1,840	110	1,069	126	665	22	134
	白谷林道・220支線	26	1,104	4	124			31	496	82	1,571
	計	493	20,307	306	13,611	413	5,628	452	7,255	501	8,795

(注) 平成22・23年度は職員実行捕獲、平成24・25年度は職員実行と委託調査捕獲、平成26年度は職員実行と委託調査捕獲及び協定による捕獲を含む数値。なお平成26年度は、平成26年4月～27年1月末の数値。

表 2 より、国有林の林道における年度別の捕獲数は、平成 22 年度が 493 頭（CPUE〔捕獲効率＝捕獲数/延べわな数〕：0.0243〔捕獲数/延べわな数〕）、23 年度が 306 頭（CPUE：0.0225）、24 年度が 413 頭（CPUE：0.0734）、25 年度が 452 頭（CPUE：0.0623）、26 年度が 501 頭（CPUE：0.0570）であった。

また、国有林における年度別の延べわな数と捕獲数の関係を図 1 に、林道別の延べわな数と捕獲数との関係を図 2 に、林道別、年度別の捕獲効率 CPUE（捕獲数/延べわな数）との関係を図 3 に示す。

図 1 より、平成 22 年度及び 23 年度は、延べわな数に対する捕獲数の割合が少なかったが、平成 24 年度以降は多くなっている。

図 2 より、同じくらいに延べわな数が多くても宮之浦林道の方が大川林道に比較し捕獲数が多い。また延べわな数は中庸だが神之川林道では比較的捕獲数が多い結果となっている。

図 3 より、CPUE は平成 22 年度及び 23 年度は低く、効率的な捕獲は難しかったが、わな掛け技術が向上した等の理由により、多くの林道で平成 24 年度には CPUE が高くなった。また、平成 25 年度及び 26 年度（平成 27 年 1 月末まで）は、24 年度に比較すると CPUE が低くなった林道がほとんどであるが、宮之浦林道と小瀬田林道では高くなった。平成 25 年度以降の CPUE の低

下は、捕獲技術が向上したにも係らず捕獲しづらくなったことを示すと思われるが、その理由として、該当林道における生息数の減少によるものなのか、くくりわなに慣れたスレジカが増え警戒心が増加した結果なのか検討を行う必要がある。

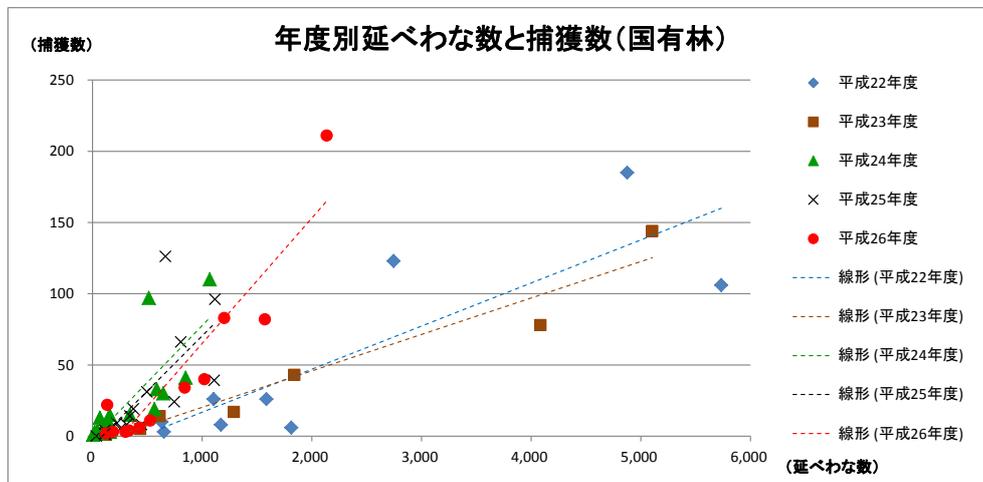


図 1 国有林における年度別の延べわな数と捕獲数の関係

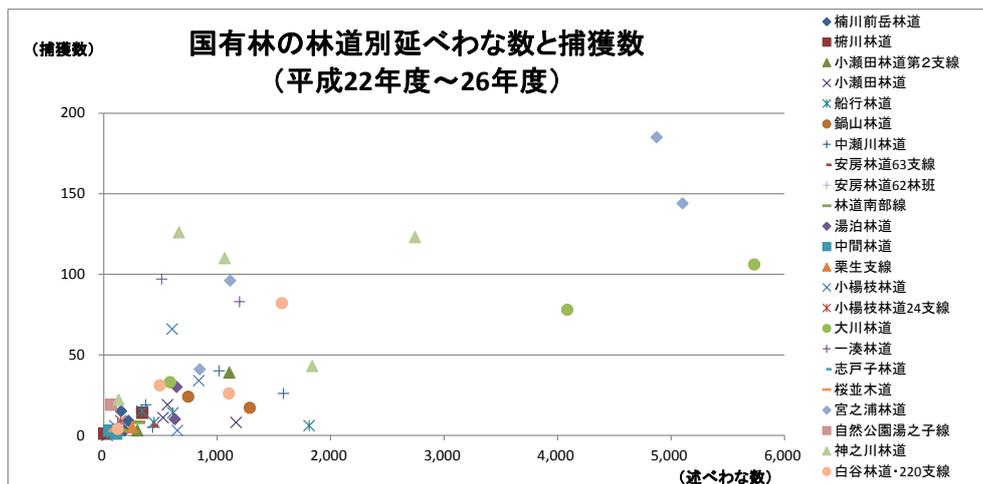


図 2 国有林における林道別の延べわな数と捕獲数との関係

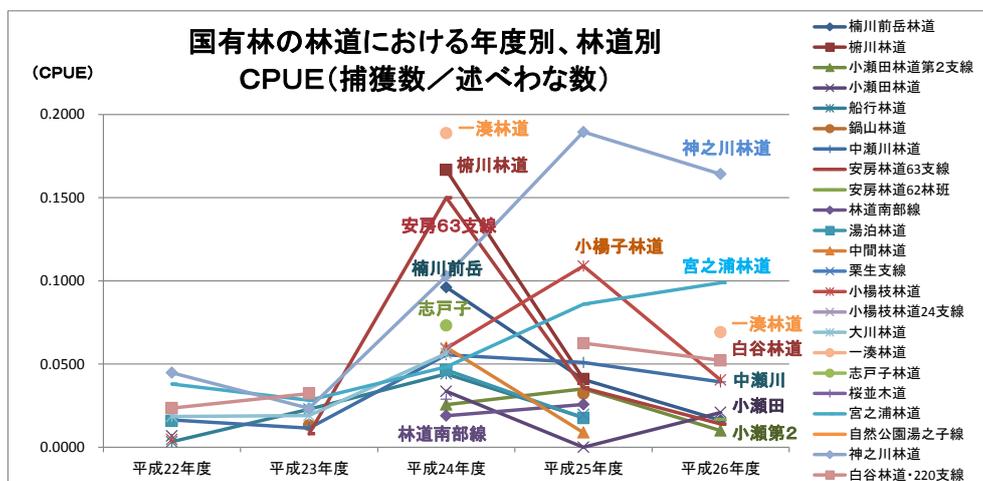


図 3 林道別、年度別の捕獲効率 CPUE (捕獲数/延べわな数) との関係
 (注) 平成 26 年度は平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月末までの数値。

図4～6には、平成24年度～26年度（平成27年1月末）までの林道別の捕獲効率CPUE（捕獲数／延べわな数）を示す。

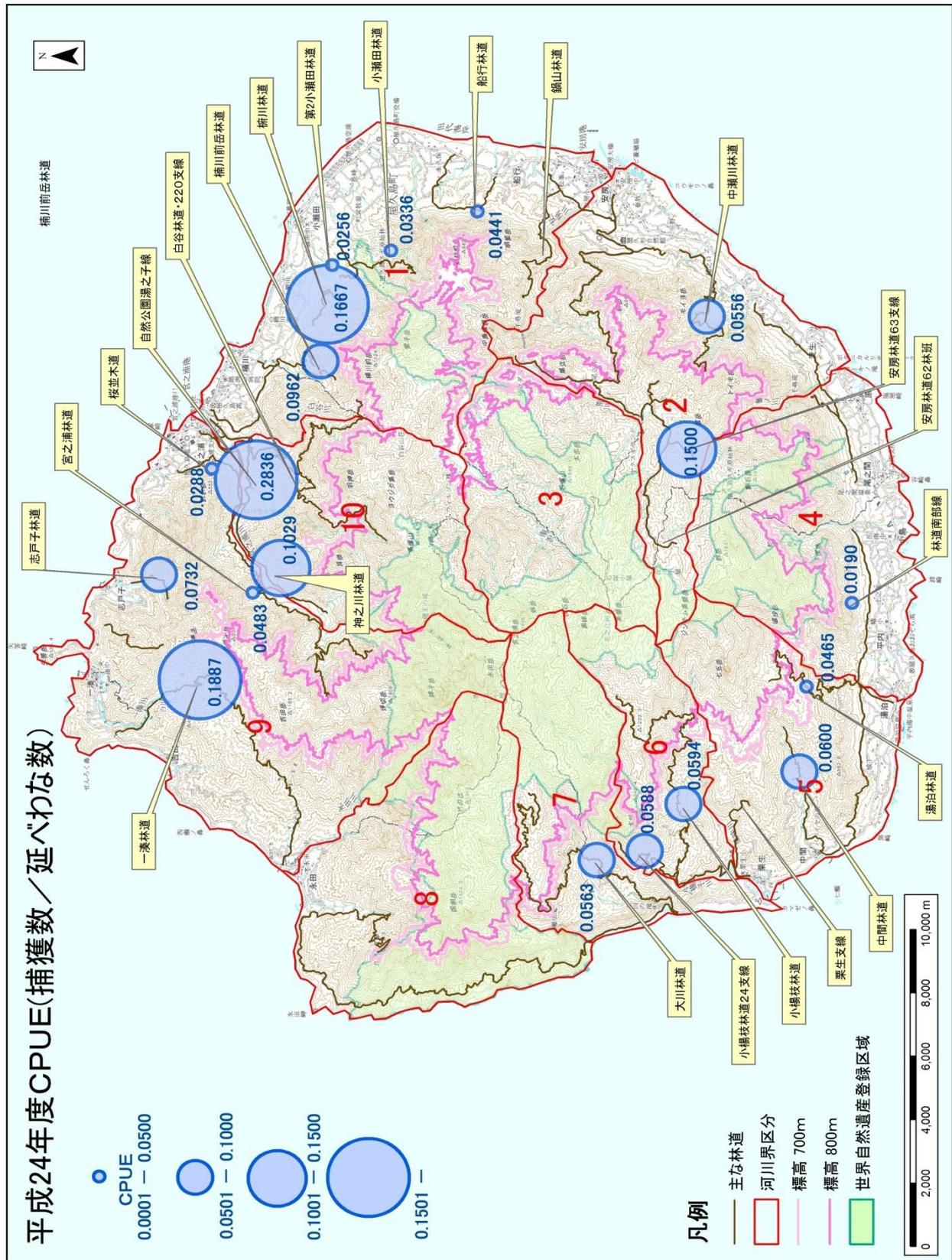


図4 平成24年度における林道別の捕獲効率CPUE（捕獲数／延べわな数）

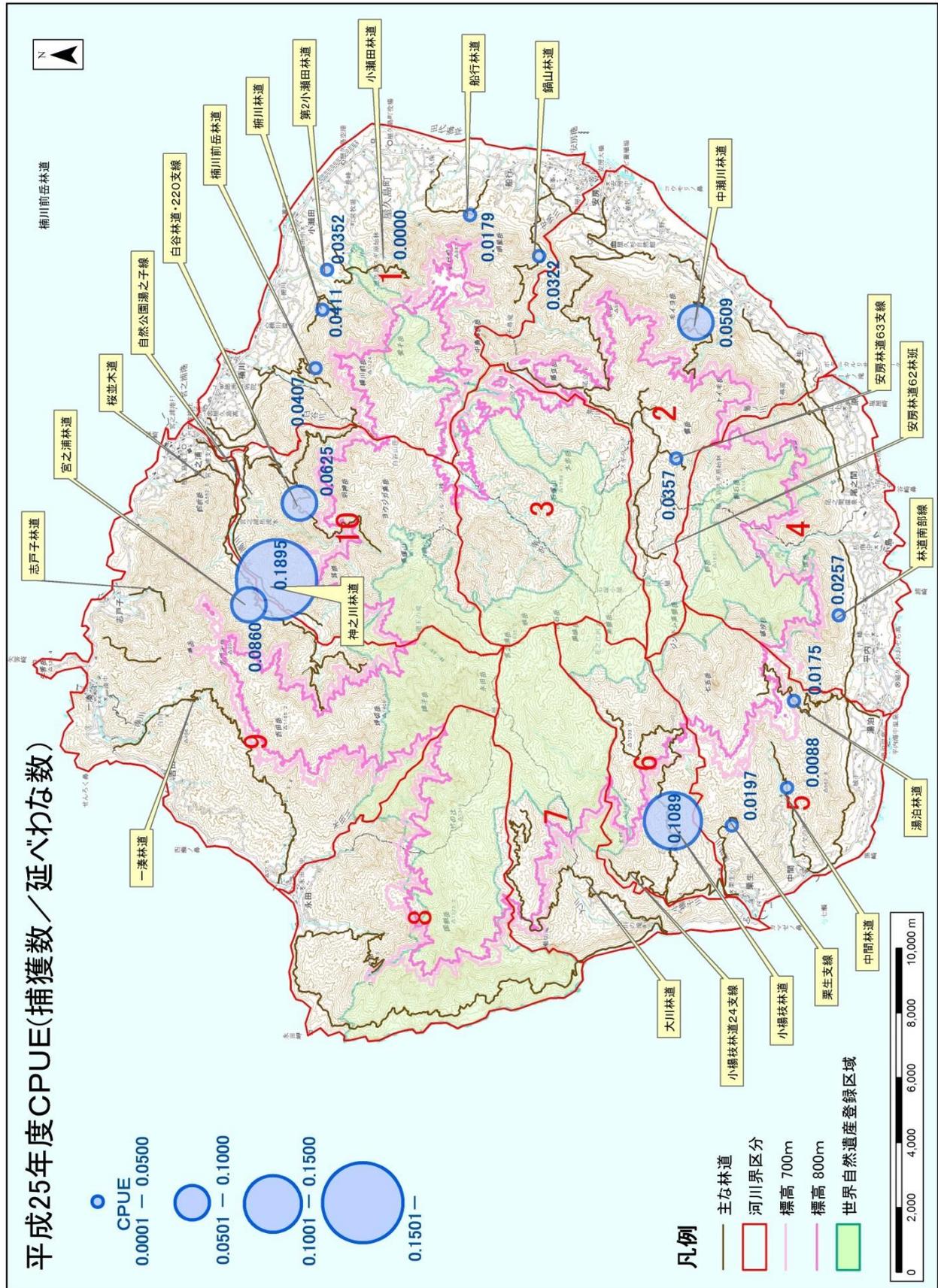


図5 平成25年度における林道別の捕獲効率CPUE（捕獲数／延べわな数）

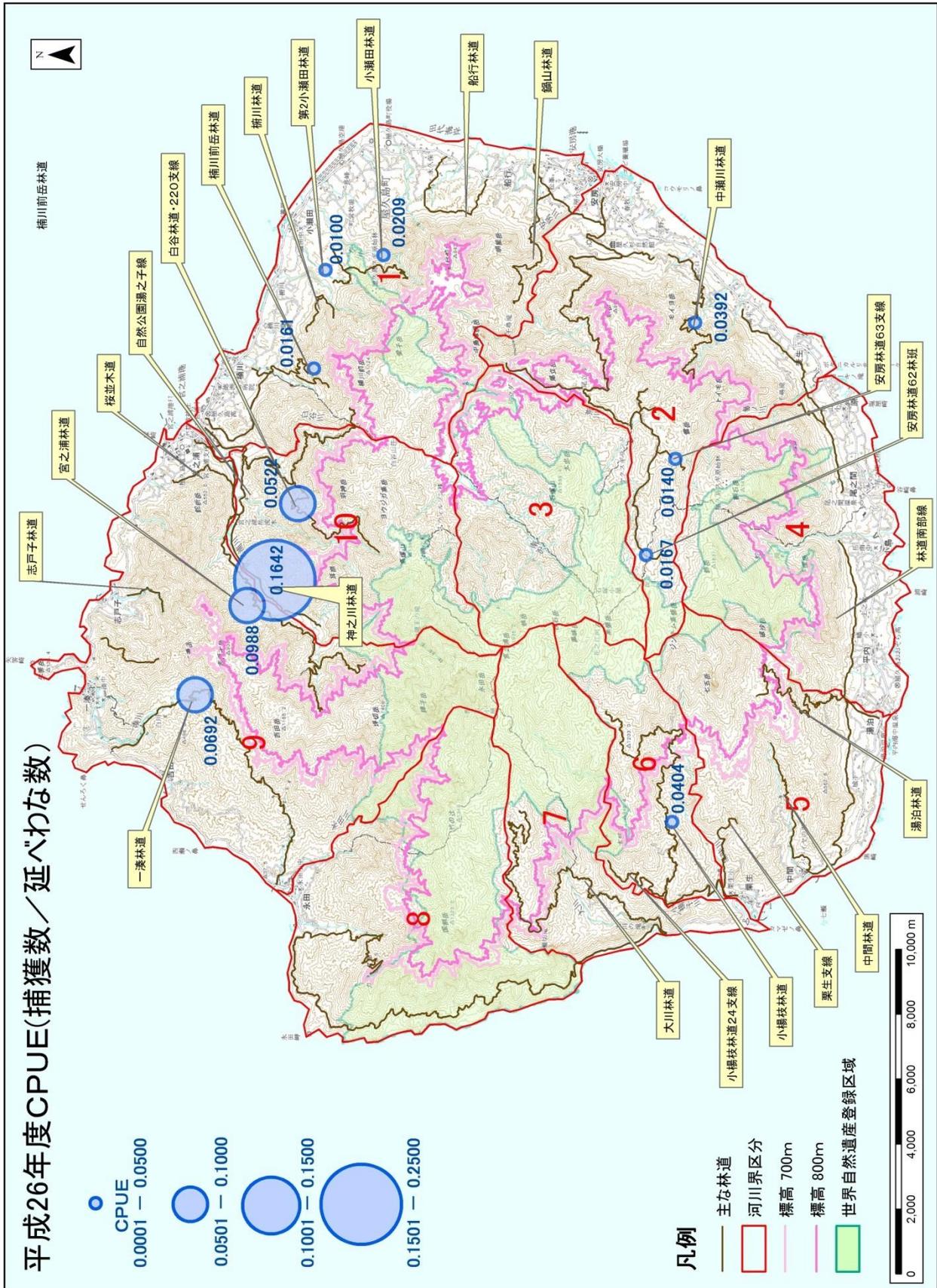


図6 平成26年度における林道別の捕獲効率 CPUE (捕獲数/延べわな数)